

【特別支援学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1（特別支援学校）

学校名	佐賀県立唐津特別支援学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケート(4段階評価)では、すべての項目で平均3.6以上の評価であり、特に、「学力の向上」と「総合」の項目については、いずれも平均3.8の高評価を得ることができた。このことから、本校の目指す「子どもの主体的な学びと育ちを支援する学校生活づくり」については、十分理解と満足をしていただいていることがうかがえる。今年度の重点目標のうち、「子どもが今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができる学校をつくる。」について、おおむね達成できたものと考えられる。 ・職員アンケート(4段階評価)では、「健康・体づくり」(新型コロナウイルス感染症や各種感染症に対する安全衛生の対応)及び「業務改革・働き方改革」の項目についての自己評価で、昨年度に＋0.3ポイントの顕著な向上が見られたことから、それぞれについて、職員の意識が高まったことがうかがえる。特に、業務改善については、会議の精選や書類作成の簡略化等を進めることができ、職員の意識向上につながったものと考えられる。 ・次年度に向けた課題としては、完成年度を迎える「育成を目指す資質・能力の3つの柱を視点とした、子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業」についての研究をさらに進めるとともに、日常の生きた授業実践の中に位置づけていく必要がある。また、さらなる業務改善や行事の精選、事務作業の合理化等により、職員の時間外勤務の縮減を図る必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立社会に参加する力」をくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	○子どもが今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができる学校をつくる。 ○子どもが今日の学校生活を「自分から」「自分で」取り組み、「やりがい」「手ごたえ」を感じ、「精一杯」「存分に」活動し、「充実感」「満足感」に浸ることができる学校をつくる。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○個別的教育支援計画・個別の指導計画作成に当たり、十分な相談や説明があったと回答する保護者の割合70%以上。 ○個別の指導計画を適切な指導・支援に十分に生かすことができていると回答する職員の割合60%以上。	・個別的教育支援計画や個別の指導計画について保護者・教員との協議を行う。また、教育支援計画については保護者・教員と作成することであることを職員に確認を行う。 ・個別の指導計画については、早下校と合わせて読み合わせを計画して時間の確保をし、級外の職員も入り内容の検討を実施を図る。	B	・個別的教育支援計画については、作成・点検・供覧とほぼ予定通り進んだ。内容の検討や変更などがある場合には、保護者とともに相談し作成することであることを再確認した。 ・個別の指導計画については、読み合わせの時間の確保は行ったが、予定の日程で読み合わせで行うべき内容が十分行われていない場合もあり、読み合わせの意義等の伝え方を改善する必要がある。	A	・説明があったと回答した保護者は70%以上であった。支援計画については、係で内容を見た後、担任に際すときに保護者とともに作成するものであると伝えられている。支援計画については適切に伝えられているものの教師側の状況も次年度は把握したい。 ・個別の指導計画を指導・支援に生かすことができたと回答した職員は60%以上であった。読み合わせの時間の確保は行い、級外の職員も交えて読み合わせを行うよう前年度3日(うち早下校日)、後期3日設定した。内容が適切であるためにも、読み合わせの時間の確保は必要だと考える。	A	・保護者とともに作成する中でとの評価とで、高評価である。 ・保護者への説明は丁寧に行うことが大切である。 ・卒業後の生活に活かせる授業内容を行っている。
	◎子どもの主体的な学びと育ちにつながる授業づくりのさらなる充実	○学校の満足度に関する項目についての保護者の評価の平均 3.7以上。 ○合同職員研修会 年間2回、各学部職員研修会 年間10回程度。	・職員研修会や授業研究会に講師を招き「育成を目指す資質・能力」や「授業づくり」について講演を聴き、教員で共通理解を図る。 ・各学部で計画を立てて実践を行い、授業の充実を目指して授業参観や授業研究会を行う。	A	・全体授業研究会を実施し、研究協議、講師からの指導助言を全職員で共有した。 ・授業の充実を目指し、各学部で研修内容を考え、研修を実施している。	A	・授業の充実につながるよう、内容を考えて各学部や合同で研修会を実施したことで、職員の授業づくりへの意識も高まった。 ・保護者の学校の満足度に関する項目も平均3.9であり目標達成できた。	A	・子どもの主体性を大切にしたい取り組みがなされている。 ・学校の満足度＝信頼度である。評価が高まると嬉しい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことができる行事や活動・場面の設定、学期に2回以上。	・生活単元学習や作業学習等において、自分の役割を果たす機会を盛り込む。 ・様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、授業・施設体験や販売学習等を実施する。	A	・各学部とも一人一人が役割をもち、生き生きと活動できるような授業を展開できている。 ・遊びの指導、生活単元学習、作業学習等において、他者とのかわりをもつ活動や場面を設定することができた。	A	・全学部が年間を通して、一人一人が役割をもち仲間とともに活動する授業を展開することができた。 ・コミュニケーションを取り合う力を育むことについては職員3.5、保護者3.6の高評価を得た。	A	・非言語的コミュニケーションの活用も積極的に取り入れてほしい。 ・現代社会には大切な内容なので継続して取り組んでほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○職員は児童生徒の問題やトラブル等に適切に対応していると回答する保護者の割合90%以上	・各2回の学校生活アンケートによるいじめ認知・認知し、組織的に早期の対応を図る。 ・日常の学校生活の中で起きた事案に対して、適切な対応をとる。	A	・学校生活アンケートを基にいじめの認知・認知に取り組み、組織的に対応ができている。 ・職員間の情報共有のおかげで、迅速で適切な対応がとれていて、その後の再発防止に繋がっている。	A	・各2回の学校生活アンケートによるいじめ認知・認知を実施し、組織的な早期対応を図ることができた。 ・職員は児童生徒に対し適切に対応していると回答した保護者の割合は90%以上だった。	A	・早期発見、早期対応に努められている。 ・適切に対応されており保護者の評価も高い。
	○明るく楽しい学校づくり	○挨拶や明るい学校づくりに関する項目についての職員・保護者の評価の平均3.7以上。	・登校時には、児童生徒や保護者に対して、笑顔顔を添えて明るく挨拶をするなど心掛ける。 ・校内では、児童生徒に対し、挨拶や言葉かけを積極的にを行い、明るく楽しい学校づくりに努める。	A	・登校時には、職員から児童生徒や保護者に対して、明るく挨拶を積極的に行うことができていた。 ・担任が笑顔で児童生徒と保護者を迎え、情報共有を行うことができていた。	A	・毎朝、積極的に笑顔で明るく挨拶を行うことを心掛けた。保護者と情報交換を行うこともできた。 ・職員・保護者ともに評価は3.7以上であり、目標を達成できた。	A	・児童生徒、職員ともに挨拶をよくされている。 ・明るい雰囲気が出ている。
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・年度初めに交通安全教室を実施し、交通ルールやマナーを学ぶ機会を設ける。 ・各月初めに単独通学生に対して、公共交通機関を利用する上での注意事項などを指導する。 ・各学期初めに、通学指導として、登下校中の見守り指導をする。	A	・唐津警察署より講師を招いて、交通ルールやマナーについて学ぶことができた。 ・各月第1金曜日の昼休みに、単独通学生に対して、公共交通機関を利用する上での注意事項や電子黒板を利用して最近起きた事故のニュースなどを見て危険意識を高めた。 ・各学期初めの3日間で、単独通学生の登下校中の見守りを行った。	A	・各学部担任の指導により、成果指標として掲げた児童生徒の交通事故の(ゼロ)が達成できた。 ・11月7日付で佐賀県交通安全協議会会長から依頼があった交通事故多発多発警報に伴い、自宅で自転車を使用している生徒に対して自転車安全利用五則のプリントや電子黒板による動画を視聴して規範意識を高めた。	A	・交通安全教室は年に数回あるとい。交通ルールをしっかり教えてほしい。 ・毎年度、しっかり安全対策をお願いしたい(イベント時の対応も重要)。
	○感染症拡大防止に係る取組の充実	○感染症拡大防止に係る取組に関する項目についての職員・保護者の評価の平均 3.7以上。	・感染症拡大防止に係る研修を行う。 ・感染症拡大防止に係る啓発活動を行う。(ポスター・メール配信・ホームページ掲載) ・アルコール消毒薬の設置や換気の徹底など、感染症拡大防止に係る継続的な指導を行う。	A	・感染症拡大防止については、日頃からプリントや掲示物による啓発活動を行っている。また、児童生徒の指導・支援をとって、衛生面や感染防止対策をとっている。 ・衛生面や感染防止対策としての喚起の徹底、備品等の準備も円滑に遂行できている。	A	・感染症拡大防止については、全職員の協力の下、実施することができた。新型コロナウイルスや季節性インフルエンザの罹患率は出たが、最小限にとどめることができた。 ・衛生面や感染防止対策としての喚起の徹底、備品等の準備も円滑に遂行できている。	A	・集団生活を行っていく中で、感染が最小限にとどめられてよかった。 ・手洗い、手指消毒が習慣化するよう継続して取り組んでほしい。
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○地域支援に関する項目についての職員の評価の平均 3.6以上。	・幼・保・小・中・高や福祉機関からの要請による巡回相談等や電話、来校による相談を受けることで、適切な支援内容や方法の情報提供を行い、指導や支援の方向性について一緒に考える。 ・特別支援教育に関する資質の向上を図るために、研修会を行う。 ・定期的な連絡会を計画し、福祉、医療などの関係機関との連携の連携、地域支援のためのネットワーク形成を図る。 ・支援会議やケース会等積極的に参画し、本校の児童生徒への支援内容、方法についての情報を整理し、地域の学校等への支援に活用する。	A	・巡回相談では、対象児童生徒の実態把握後、気持ちをもとに話し合いの場をもち、指導や支援について検討ができている。来校による相談にも情報提供等を行い、丁寧に対応ができた。 ・外部講師や他校の研修会やSGによる研修会等を実施した。 ・学期に1回以上は各機関との連絡会をもち、連携を図ることができた。 ・支援の検討や共通理解が必要な児童生徒については、支援会議を開催し、支援内容、方法の十分な検討を行っている。このような事例をもとに、地域の学校の相談の場でも支援の参考として話している。	A	・巡回相談では、児童生徒の実態把握や情報共有後、具体的な支援方法について十分に話し合い、検討ができた。来校による相談にも、学校の情報提供等を行い、丁寧に対応ができた。 ・外部講師や他校の研修会やSGによる研修会等を実施し、児童生徒への自らの支援について改めて考える機会をもち、その後の支援に生かすことができた。 ・各機関との連携は、児童生徒退送時や電話連絡等で情報共有や情報交換等を行い、連携を深めたりすることができ、十分に図ることができた。 ・支援会議を実施し、支援内容や方法の検討を行い実践し、児童生徒の様子に支那は見られた。このような事例をもとに、地域の学校の相談の場でも支援の参考として話ができている。	A	・地域の関や学校の抱える課題に対し、解決に向けそれぞれの立場や本人の強みが生かされるよう具体的なアドバイスをしてほしい。 ・定期的な連絡会の計画、ネットワーク形成に引き続き努めてもらいたい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・11月末までに14回の定時退勤日を設定し定時退勤の呼びかけをしたが、まだ徹底できていない。 ・会議の時間、回数の削減は、各部署で意識してできている。	B	・月2回程度の定時退勤日を設定し、個人研修の日やパーソナルタイムも設けていたが、打合せ等が入ることがあった。 ・仕事の効率性を考えた改善があまりできなかった「できなかった」と回答した職員は昨年より増加した。	B	・簡素化できない授業準備等が多いと思われる。 ・会議の精選と時間の制限が必要。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育
----------------------	------------------------

重点取組	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○道路指導	○一人一人に即した道路指導の充実	○児童生徒及び保護者のニーズに応じた道路指導に関する項目についての保護者の評価の平均 3.6以上	・保護者向けの道路学習会を、学齢や時期に応じて適切に行う。 ・福祉サービス事業所の情報収集、提供に努める。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業を開拓する。	A	・就業・施設体験や就労アセスメントなど、実施時期に応じて説明会を行うことができた。 ・県の就労支援コーディネーターの協力をいただきながら新規企業の開拓を行っている。今年度の就業・施設体験では、3社の新規の企業で体験を計画している。	A	・就業・施設体験や就労アセスメントの説明会に加え、保護者懇談では学校・地区に合わせた道路学習会を実施することになった。 ・福祉サービス事業所と連携を取りながら、収集した情報を保護者や職員に広く案内した。 ・道路指導に関する項目についての保護者の評価の平均は3.6であった。	A	・障害の重さや行動で過小評価されないように検討してほしい。 ・今後も施設体験等、充実させてほしい。 ・積極的に事業所や関係機関と連携されていると思う。

5 総合評価・次年度への展望	・学校の教育目標に沿った教育活動を実施することができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止と並行しながら学校行事や学習活動を工夫し、ほぼ予定どりの活動を行うことができ、児童生徒の主体的に学ぶ意欲や活動を後押しすることができた。 ・次年度においては、本年度の反省を生かし、更に工夫を重ねながら、充実した教育活動を行いたい。また、児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域が連携しながら学校の教育目標を実現したい。さらに業務や行事を精選しながら働きやすい職場の実現に取り組むたい。
----------------	---